

令和元年度 上溝地区まちづくりを考える懇談会結果報告

- 1 日 時 令和元年11月11日(月)午後7時から午後8時30分まで
- 2 場 所 上溝公民館大会議室
- 3 市側出席者 本村市長、下仲副市長、藤田中央区長、石井企画財政局理事、
荻野まちづくり計画部長、鈴木中央区副区長
樋口市民局長、高梨市民局次長
- 4 出席委員等 21人
- 5 傍聴者 10人
- 6 懇談会の要旨

テーマ1	小田急多摩線の延伸と上溝のまちづくりについて
概要	<p>本年5月28日に「小田急多摩線延伸に関する関係者会議 報告書」と「同調査のまとめ」が発表され、本村市長からは「JR相模線上溝駅までの全線整備及び更なる延伸を見据え、段階的整備の手法により第1期整備区間(唐木田～相模原)の先行整備を軸に検討を進める」とのコメントがあった。</p> <p>その後、7月18日の上溝公民館での対話集会でも考えを伺ったところだが、小田急多摩線の上溝駅までの延伸を早期に実現させることは、上溝地区だけでなく、田名地区、愛川町、清川村、厚木市を含む首都圏南西部の悲願である。</p> <p>また、上溝の「まち」をさらに発展させるため、相模線の複線化をはじめ、バス路線の見直し、コミュニティバスの導入など公共交通の利便性向上を図ることは、通勤・通学の時間短縮、高齢者の通院・買い物等の日常生活の維持、乳幼児を抱える家庭にも必要であるため、「小田急多摩線の延伸と上溝のまちづくり」について懇談したい。</p>
地区の取組状況等	<p>平成28年4月の交通政策審議会の答申以来、「小田急多摩線延伸・上溝駅開設推進協議会」を設立し、地区内外の団体と連携しながら延伸実現に向けた取組を進めてきた。大正末期から昭和の初めに上溝地区の住民が中心になって相武電気鉄道の敷設計画の実現を目指し活動した史実は、忘れてはならない。先人達の熱い活動は、大いに刺激となり、参考になる。</p> <p>また、上溝地区自治会連合会をはじめ地区内の活動団体が総ぐるみで、江戸時代から続く伝統と歴史のある上溝夏祭りをはじめ、上溝さくらまつり、サンマまつり、だるま市など四季を通して名所づくりとイベントの開催などにより、まちの賑わいづくり、上溝地区だけでなく区や市のブランドイメージの向上とシビックプライドの高揚に寄与することで、人の交流を促し、定住者の増加と公共交通の利用促進の活動をしている。</p>
市の取組状況等	<p>小田急多摩線の延伸については、平成28年4月の交通政策審議会答申第198号で示された、収支採算性等の課題を解消するため、学識経験者や小田急電鉄、国、関係自治体などで構成する「小田急多摩線延伸に関する関係者会議」を設置し、平成28年8月から平成31年3月までの調査結果を取りまとめ、令和元年5月に公表した。調査では、唐木田駅から上溝駅までの「全線一括整備」は収支採算性に課題が残る結果となったが、「段階的整備」における相模原駅までの第1期整備区間の収支採算性は、都市鉄道利便増進事業の適用の目安となる3</p>

	<p>0年以内に黒字転換することが確認できた。令和元年10月29日には、「第8回小田急多摩線延伸に関する関係者会議」を開催し、今後は「全線一括整備」、「段階的整備」における第1期整備区間、第2期整備区間の路線計画、運行計画や需要予測等のより詳細な調査検討を数年かけて行うこととしている。</p> <p>上溝のまちづくりについては、平成13年に県道相模原大蔵町の拡幅整備に伴い、上溝駅が高架になり、駅から離れていたバスロータリーを駅直近に移転させるなどにより駅前広場を整備した。平成30年度には、県道相模原茅ヶ崎の上溝本町交差点付近の電線類の地中化が完了した。現在は、概ね20年後を見据えた「都市計画マスタープラン」について、令和元年度末の策定に向けて作業を進めている。この中で将来のまちの姿である「将来都市構造」について、小田急多摩線は、上溝までを整備検討路線、上溝から田名、愛川方面を構想路線として位置付けている。また、上溝駅周辺は、交通の結節点となるため「利便性の高い日常生活を営むための商業・サービスなどの都市機能を維持・誘導し、地域と一体となった拠点形成」する「地域拠点」として位置付けている。</p> <p>路線バスについては、ターミナルである上溝駅を中心としたバス路線網について、鉄道駅やバスターミナルを結ぶ主要なバス路線（幹線）と、それを補うバス路線（支線）にそれぞれサービス水準を設定し、運行本数の確保に努めている。</p> <p>JR相模線については、市長を会長とする「相模線複線化等促進期成同盟会」において、毎年JR東日本や国土交通省に要望活動を行っており、本年度は、市長自らが要望する予定である。（都市建設局）</p>
--	--

懇談内容	
地区の発言	小田急多摩線の延伸について、実際のところ相模原駅までの先行整備が確定しており、上溝駅までの段階整備は考えていないのではないかと。
市の発言	段階的整備としての唐木田駅から相模原駅までの先行整備については、あくまで平成28年8月から平成31年3月までの「小田急多摩線延伸に関する関係者会議」の調査結果を踏まえた考えであり、決定したものではない。今後、「全線一括整備」「段階的整備」における第1期及び第2期整備区間の路線計画、運行計画及び需要予測等のより詳細な調査検討を行い、関係自治体や小田急電鉄等の関係者と協議の上、決定していく。検討にあたっては、相模総合補給廠一部返還地の土地利用が大きな方向性を握っていることに変わりはない。この調査の前提として、相模総合補給廠一部返還地における従業人口（働く人）を2万人、夜間人口（住む人）を3千人としているが、今後、この土地利用計画が変わってくるため、それを踏まえて検討し、最終的には、総合的に関係者間で合意するものと考えている。（都市建設局）
地区の発言	第2期整備区間についても早期に調査を実施し、結果については、「小田急多摩線延伸・上溝駅開設推進協議会」の役員等に適時・定期的に報告を行うとともに、話し合うための会議の場を設けていただきたい。
市の発言	「小田急多摩線延伸に関する関係者会議」においては、「全線一括整備」「段階的整備」における第1期及び第2期整備区間ともに路線計画や収支採算性などを合わせて検討することの合意を得ている。検討状況に関する情報提供については、他の関係者の了解が得られた範囲となるが、可能な限り情報提供しながら進

	<p>めていきたい。そのような状況であるため、小田急多摩線に特化した会議の設置については、時期尚早ではないかと考えており、地域において上溝のまちづくりを考える会議等があれば、その中で情報提供できればと考えている。（都市建設局）</p>
地区の発言	<p>上溝までの延伸を実現するには、今から準備をする必要がある。まちづくりを検討するに当たっては、住民だけでは大きなビジョンを描くことは難しいため、庁内に小田急多摩線上溝駅開設を目指したまちづくりを担当する課を設置していただきたい。</p>
市の発言	<p>小田急多摩線延伸の推進体制については、交通政策課に一つの班をつくり推進するほか、同じまちづくり計画部には、都市計画課や建築・住まい政策課があり、現在は、各課が情報交換などの連携を図りながら取り組んでいる。また、身近な存在として、まちづくりセンターもある。今後、検討の熟度が増した際に、担当課の設置も考えられるが、現時点ではご意見として伺いたい。（都市建設局）</p>
地区の発言	<p>10年の経過はあっという間である。上溝までの延伸が決まる前までに、ある程度のまちづくり構想やビジョンが必要になるため、担当課を1年でも早く設置してもらいたい。また、これまで「小田急多摩線延伸に関する関係者会議」に係る情報提供は十分ではなかったため、情報公開については積極的な開示を行い、適時、住民との懇談の中で情報共有してもらいたい。</p>
地区の発言	<p>駅を中心に鉄道やバス・自転車などの移動手段や歩行環境の充実が、今後、更に重要になる。上溝は南北に長く伸びた地区で、交通が不便な地域もある。高齢化が進行しマイカーを運転することに不安を感じる人も多く、所得の状況によりタクシーが利用できない高齢者のみの世帯からの相談も多くある。外出してまちを歩いたり、バスに乗ったりして人と交流することは、健康を維持する上でとても大切である。今後も高齢者が増えていく中で、子どもから高齢者まで、全ての住民が元気に、いきいきと暮らせるような健康なまちにするためのアドバイスや基本的な考えがあれば、教えていただきたい。</p>
市の発言	<p>上溝地区については、「都市マスタープラン」で「地域拠点」として重要な拠点と位置付けている。人口減少社会、高齢化社会が始まっている中、集約連携のまちづくりがポイントであり、これまでのように郊外にまちを広げるのではなく、公共交通等で「拠点」と「拠点」を結び付けることが大切である。</p> <p>今後、市では「立地適正化計画」を策定し、可能な限り多くの人・様々な世帯がまとまって住み、その「拠点」と「拠点」を公共交通等で結ぶまちづくりを、ゆるやかに進めていく考えである。また、道路、駅、民間デパートやアパートなどについては、どのような人でも使いやすいようなユニバーサルデザインにしようとしているため、そうしたことも合わせて暮らしやすいまちづくりをしていきたい。（都市建設局）</p>
地区の発言	<p>市長が就任以来、シビックプライドを掲げ、市に活力をもたらすことには大賛成であるが、シビックプライドの前に、上溝などの基礎地域に、子どもたちが誇りを持てるような存在になって欲しい。小田急多摩線の延伸は、子ども達に明るい未来をもたらすと信じている。「小田急多摩線延伸・上溝駅開設推進協議会」</p>

	<p>は、将来世代のため、将来の上溝のために一生懸命活動しているので、ぜひ延伸を実現させてもらいたい。</p>
<p>市の発言</p>	<p>これまで行政が、市民に対して手放しで小田急多摩線が延伸されるような話をしてきたことには大きな責任がある。小田急多摩線の延伸については、国土交通省や小田急電鉄をはじめ関係者から厳しい話を聞いている。平成28年の交通政策審議会答申で前進があったことは事実であるが、あくまで答申であって延伸が約束された訳ではない。延伸を実現するために、これから現実的な話をしていく必要があると考えている。小田急電鉄は民間企業であるため、上溝まで延伸したいと思わせるようなまちづくりをしていかなければならない。それは行政任せではできないため、市民、議会、行政が一体となって考える必要がある。子どもたちが夢を持てるよう、今の世代で実現できなくても、次の市長、その次の市長を中心として、しっかりとバトンをつなげていくことが私達の責任である。</p> <p>第1期整備区間の黒字転換が26年間という収支採算性についても、相模総合補給廠一部返還地のまちづくりが何も決まっていない状況では、従業員人口2万人、夜間人口3千人という数字自体も決定事項ではない。これから令和4年を目途とし国有財産関東地方審議会に、市民と対話をしながら決めた相模総合補給廠一部返還地のまちづくりの絵を提示していく。その結果として、従業員人口や夜間人口が正確に出てくる。まだまだ小田急多摩線については始まったばかりで、一括整備をしたいが、上溝地区においてワクワクするまちづくりをしなければ、民間企業は延伸できない。どのように人を呼び込むまちづくりを進めていくのか、しっかりと地に足をつけて一緒になって対話しながら考えていきたい。小田急多摩線の上溝までの延伸、一括延伸を目指して頑張っていきたい。(市長)</p>

テーマ2	防犯の取組について
概要	<p>上溝地区では、昨年5月から9月にかけて、駐車場で100台の車がパンクさせられる被害があり、個人が設置した防犯カメラから犯人が判明した。また、鳩川住宅から100メートルの道路において32回に渡ってガラスが割られたり、泥棒に入られたり、嫌がらせがあった。犯人逮捕はされたものの、防犯カメラが設置されておらず、大変な思いをして検挙に至ったと聞いている。</p> <p>また、ドライブレコーダーにより、あおり運転などの犯人が分かる事例もあるが、上溝地区には防犯カメラがあまりにも少ないと認識している。この地区には2つの小学校と中学校、高校があり、児童・生徒が通っている。また、夜間は街路灯が少なく暗いため、安全な生活を送るのに苦慮している。</p> <p>自治会での防犯カメラの設置については、自治会員の減少により経費の確保が困難であり、設置した後の映像の記録にも経費が発生する。夜間については、地元での見守り活動ができないため、安全・安心のまちづくりのため、防犯カメラの設置及び運用経費について、ぜひ協力をお願いしたい。</p>
地区の取組状況等	<p>当地区内では、上溝商店街振興組合が9台、自治会が1台防犯カメラを設置し、管理・運用している。</p> <p>また、「高齢者相談つなぎの家」事業として、高齢者を見守る機運の醸成と安全・安心に暮らせるまちづくりを推進するほか、ボランティアによる「見守り隊」を組織し、登下校時における児童の安全確保に取り組んでいる。</p>
市の取組状況等	<p>犯罪の認知件数について、市内では平成30年1月から12月までが4,243件、今年1月から10月までが3,282件となっている。上溝地区では、平成30年1月から12月までが375件、今年1月から10月までが252件となっており、内容として一番多いものが、自転車盗、続いて器物損壊、車上荒らしとなっている。</p> <p>その中で、防犯カメラが犯人検挙や抑止力に非常に効果があるということで要望が多いところであり、本市では、自治会や地域住民等で組織され、継続的に防犯活動を行う団体に対して、地域防犯を目的として設置する防犯カメラ設置費の補助を実施しており、平成28年から平成30年までの3年間で延べ55団体、104台分の補助を行っている。</p> <p>防犯カメラの設置に際しては、ガイドラインを設け、防犯の専門的な知識を持つ方の助言や、地域で作成した防犯マップ等に基づき、より防犯効果が発揮される場所に設置いただいていると承知している。</p> <p>当該補助制度は神奈川県と協調補助で実施しており、負担割合としては、10分の5が神奈川県、10分の4が相模原市、残りが地域となっている。補助額の上限については27万円であるが、申請の中には4万円程度のものもあり、価格については差がある。また、近年、防犯カメラの性能も向上しているため、上限額の見直しの可能性もあると考えている。</p> <p>協調で実施する本制度は、今年度が最終年度とされており、現在、神奈川県では制度の見直し・今後の方向について検討していると承知している。本市では、地域からの要望が非常に多いことから、神奈川県に対し当該制度の継続を要望している。現時点で、神奈川県から方針は示されていないが、制度を継続できるように取り組んでいきたい。</p>

	<p>防犯カメラについては、非常に抑止力があるものではあるが、加えて地域住民の目も重要であると考えているため、防犯に関して、市としては、今後も地域住民や警察、関係団体と連携して市民の安全・安心を高める取組を推進してまいりたい。（市民局）</p>
--	--

懇談内容	
市の発言	<p>防犯カメラは有用であると考えているが、一方で台風第19号の災害対応に財政負担が発生する状況である。また、災害対応に関わらず、市の財政については近い将来で非常に厳しい状況になる。そのような中で、如何に防犯カメラを設置するかについては、現在ある神奈川県補助制度を継続させることが重要で、県に対しては、重点要望として強く要望している。まずは、神奈川県の補助を着実に受けながら取組を進めたいと考えている。安価な防犯カメラもあるとのこと、皆様の協力を得ながら知恵を絞って合理的かつ効果的な設置に取り組んでいきたい。（副市長）</p>
地区の発言	<p>自動販売機に防犯カメラを設置している事例もあるようだが、地域には数多く自動販売機があるため、事業者と市の協働の取組ができないのか。</p>
市の発言	<p>ふれあい広場においても、防犯カメラを設置した自動販売機が2台ある。防犯カメラは事業者が設置するが、運用・管理費については、自治会等の管理運営委員会が負担している。防犯カメラの設置費用が発生しない方法もあるが、自動販売機については、一定の収益が上がる場所に設置されるものであるため、民間事業者と連携した設置については、研究してまいりたい。（市民局）</p>
地区の発言	<p>防犯カメラの設置に関するガイドラインや申請書が難しく、事務手続きの負担が大きいため、設置ができないとの意見が多くある。防犯カメラについては、性能も良く、価格も下がっている。自宅に6台の防犯カメラを設置した費用が8万円だったという事例もある。神奈川県との協調補助ではあるが、単価が安く性能の良い防犯カメラを見つければ、県の補助がなくても市の負担のみで大部分が設置できるのではないかと。財政が厳しい状況は理解するが、地域の安全・安心を考えると、小学校の通学路など主要な箇所については、全額市負担で防犯カメラを設置してもらいたい。</p>
市の発言	<p>防犯カメラについては、安価なものでも十分な性能があるため、検討していきたい。また、申請が煩雑であるとのことのご意見については、神奈川県との協調補助であり、神奈川県にも申請書類を提出する関係もあるが、手続きの簡素化についても検討していきたい。（市民局）</p>
地区の発言	<p>「こども110番の家」については、よく看板を目にするものの、事業の中身については、あまり知らないとの声を聞く。5年に一度の更新時期に合わせ、市として、不足している箇所や啓発の考え・アドバイスがあれば教えて欲しい。</p> <p>また、「こども110番の家」について、コンビニエンスストアやガソリンスタンド、商店などの事業者への働きかけをどのように行ったらよいかアドバイスをお願いしたい。</p>

市の発言	<p>「こども110番の家」については、協力者に5年間の依頼をしており、上溝地区では255箇所のご協力をいただいている。その多くが一般のご家庭である。周知については、ホームページに掲載するほか、クリアファイルを新入学児童に配布しているが、今後も、周知方法について工夫してまいりたい。コンビニエンスストアなど新たな事業者の協力についても必要だと考えているため、学校関係者や地域の方にこの制度についてご意見を伺いながら、よく検討してまいりたい。(市民局)</p>
------	---

市長の感想等	<p>小田急多摩線については、皆様と同じ目線で一括整備という大きな目標に向かい、まちづくりという課題に対しても、皆様と対話をしながら、子どもたちや孫の世代に住んで良かったと思えるまちづくりを進めていきたい。防犯カメラについては、神奈川県知事に重点項目として要望しており、未だ回答はないが、引き続き、対応してまいりたい。また、市の財政を自分たちの家計だと思って、市職員も取り組んでいかなければならない。これまで市の財政が厳しいことを市民に対し話をしてこなかったようだが、これからは現実を伝え、夢を壊す訳ではなく、お金がなければ民間活力を利用し、知恵を出し合っていくことが大事だと思っている。これからも上溝地区の皆様と膝を突き合わせ、相模原市の立ち位置を知っていただきながら、未来のさがみはらを一緒につくっていただきたい。(市長)</p>
--------	---